礫陵新聞

特集号

発行所
若松高校新聞部
北九州市若松区小石
発行　編集
若松高校新聞部
印刷所
吉田印刷所　☎5424

躍進するクラブ活動

一年生がこの若松高校に入学してきて、もはや一ケ月の月日が過ぎた。もう、少しは若高の雰囲気にも慣れたであろう。我々新聞部は、年行事の一環として一年生のために、若高のクラブ活動を紹介している。今年も発行するが、例年、最初は誰でも、どこかのクラブに入っている。しかし二ケ月、三ケ月、と過ぎていくにつれて、どこのクラブでも一年の部員数が減っていく。こういう事がある限り、〝真のクラブ活動〟というものが生まれてこない。これからも三年間若高生としてクラブ活動に、勉強に、励んでゆくと思うが高校生活のうちで、一番有意義なものといえば、クラブ活動の他にはないと思われる。このクラブ活動に一人でも多くの人が参加し、高校生活の一番印象深いものとして、自分が充実した高校生活を送ったと幾年たっても思い出される様にしたいものだ。ここに若高のクラブ活動を掲載するが、今、どこのクラブにも入っていない人はどこかのクラブに参加することを切に希望する。

文芸部

文芸という名の示す通り、文芸活動はもちろんの事であるが、部員各自が、単なるクラブ仲間であるというよりも〝友〟である。だから常にいろいろな事をみんなで話し合い、部員の各自が持っているいろいろな悩みを解決なり、それが出来なくてもみんなでいっしょに悩んでいこうとするクラブである。だがまじめな話しだけでなく、先生のうわさ等もするし、勉強についても常にみんなで考える。毎年三年生が多いという事も特色の一つで、ただ部に籍を置いているという人は少なく、むしろ活動に参加している。活動をしたからといって大学に落ちるという事がないことは我部を見てもわかると思う。今年の抱負は、毎年発行する〝つぶて〟と活動の充実にあります。

なお入部希望者は部室にどうぞ

生物部

生物部は、園芸、解剖、昆虫、植物、研究の五班に分かれ、各班ごとに活動している。部全体の活動は、年度末の部報作製である。採集物は各班で調査しているが、その調査としては、名称を調べるだけでなく、顕微鏡観察や、解剖飼育など、あらゆる方面にわたっている。捕獲漁業から栽培漁業への転換が行なわれつつある現在、我が憂すべき生物部でも、小規模ながら、動物、植物の飼育方面に手をつけている。我が生物部の特徴は小数精鋭主義で粒がそろっている。また、他校の生物部が手がけていない方面までも手をのばしその成果は、着々と現われている〟まあ今度の文化祭をみていて下さい〟くわしく知りたい人は生物部まで来て下さい。新入部員も一段落し、今から本格的な活動を始め、生物学界にさん然たる光を投げかけることでしょう。期待して下さい。

物理部

現在物理部々員は三〇名、土曜日を実験日と定めて各々の実験を物理の助手の人の協力を得て楽しく活動している。また、月曜から金曜日にはアマチュア無線をしている。開局して一年半、本年度の予算で機械が新しくなり、より多くのハム仲間と話しが出来るようになるだろう。去年は若高で初の女子のアマチュア無線技士が誕生かと期待したが実現するまでにはいたらず、新一年生に期待している。土曜日にしか実験出来ないためアマチュア無線が大部分をしめるが、本年度の計画として、アマチュア無線士をふやすことと、天体観測を行うことである。天体観測に於いては、先輩が残していってくれた天体望遠鏡を使って行うことになっている。

全部員は、物理部天文班を中心に張切っている。

地理部

現在、地理部は三つの班に分けて活動しているが、それぞれについてその活動内容を紹介しよう。まず調査班について、この班は夏季調査旅行地である山陰地方に関する総合的な調査を始めとして、交通量やアンケート等地理的な調査と名の付くものなら何でもやろうという班である。次に観光案内班であるが本来の活動目的としては、やや邪道な感もするが、各地の観光地の様子を知ることができ、仕事をしていて楽しめるという点で一つの班とした。夏休みの旅行シーズンには全校の皆さんに利用していただくつもりである。最後に若松、マスタープラン班は石炭の積出港として現状をどう受けとめ、また、今後どのように発展して行くか、等石炭を中心として将来の若松のたどる道をマスタープランと関連して調べるつもりである。以上紹介してきたが、地理部は比較的地味なクラブであるのでこの際、皆さんの認識が新たになれば幸いだと思っている。

歴史部

歴史部は現在、部員四一名、顧問の先生は河野、内田、今泉、岩尾の諸先生である。歴史部の活動は年表的な歴史的事実より、私達の祖先の築いた諸々の古代文化の研究を行っている。歴史部ではこれを縄文、弥生、古墳、中世の四つの文化期に分け、これらを縄文弥生、古墳、中世の四つの班がそれぞれ研究している。縄文班では世界に類のない素晴しい原始美術である縄文式土器について、又、この時代の主要な生活用具である石器の研究をしている。弥生班は金属器、農耕等新文化の渡来による生活と社会の変化を生活用具、集落と住居、社会構造、埋葬と信仰等多方面からの観察によってとらえ研究中、古墳班では文字通りこの時代の象徴である古墳についてその形態と構造、分布を研究中中世班は日本の文化、建築史上に重要な位置を占める域についてその発生、構造、歴史を研究している。

歴史部では発掘を行う機会が多いゆえこれらの班の他に測量班は課題として若高の地図を作ることにしている。これらの班は発足が新しいため成果はほとんど上がっていず、文化祭に於いて中間発表する予定である。

英会話部

四月二日、今年のオールドボーイ、オールドミス失礼！オールドガールと共に門司の四季の丘とやらに行く、元キャプテンの岡、アクティブティを男、町本さん等が来られなかったのは残念、花見の後、バレーボールをして楽しみ部員全部の親睦をはかった。大成功でした。これからも年に四回、レクリエーションは欠かさないつもり。上旬常は、会話練習は毎週三回、現在は新入生への紹介期間として、毎日やっている。又、フォークソングを歌ったり、フォークダンスもやったりするのよ、今でもいいわ、入部して頂戴。

何でも気軽に話し会えるのよ。今度の生徒会へも、三人立候補して二人当選した。誠に感慨しい（？）わ。

演劇部

現在部員数は一年三名、二年五名、三年四名で、顧問は鶴島先生です。

昨年は「祝い日」と「国道の幽霊」を上演した。文化祭、予餞会などは、皆に演劇部の活動を知ってもらうチャンスではないかと思う。しかし、いつも劇を上演した後で「よく聞き取れなかった」という声を聞く。スタッフもキャストも毎日一生懸命練習したのだが――。

クラブの雰囲気はなごやかで明るく、いつも笑いが絶えず、部員が少ないので皆が家族のように落け合っています。

演劇というと、なにか難かしいとっつきにくい感じだが、全然違うということが、自分でやってみるとよくわかる。演劇は学校の勉強とかたちは違うが行きつく所は同じだと思う。人生勉強の一つなのだ。学生時代の楽しい思い出を作る為にも、ぜひこの演劇部入部を勧める。今年度の抱負としては西日本演劇コンクールで良い成績を修める事だ。

写真部

写真部は、部長平野文憲を含めて、部員数は二十三名、顧問は橋本先生です。

現在は、身分証明書の写真の現像のために忙しい毎日を送っています。撮影方面では、九州学生写真連盟主催の撮影会に参加し、全員の撮影技術の向上をはかっています。

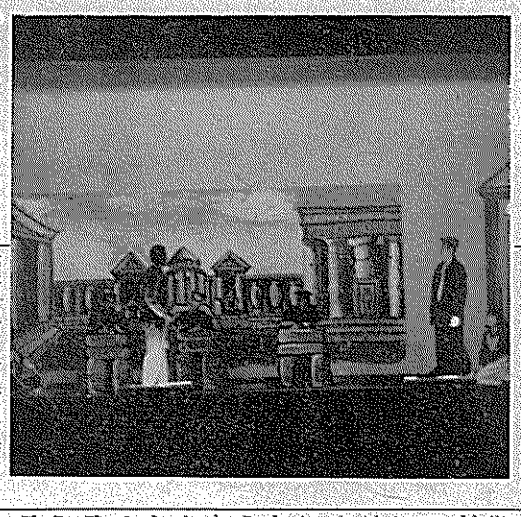
また、運動会、予餞会、文化祭各クラブの対外賦合、運動クラブの練習風景などを写して、写真展を開催するつもりです。部員にはフィルム現像、引伸ばし、トリミング、密着、フニロタイプのかけ方など、暗室作業のすべてを全員にマスターさせるために、これから研究会などを開こうと思っています。写真に興味のある方はどうぞ。歓迎します。

映画部

皆さんは映画というとふつう映画館で見るのが映画だと考えがちだと思います。ですから多分製作の苦労はご存じないでしょう。一口に映画といってもただカメラに収めるだけでは本当の映画とはいえません。ではどのような事が必要なのかといえば、計画（撮影の場所、登場人物等）画面の明暗（太陽の角度、位置）次に撮影（一度予行演習、本番）編集（テーマにそってフィルムをまとめる）そして最後に映写となるわけです。次に教育映画について一言。現在の教育映画は余りにもつまらなさすぎると思います。というのはまったく小学生向きの教育映画の価値しかありません。ですからたとえば中学、高校生向きの教育映画を作ってほしいものです。たとえば受験地獄、定時制の就職問題等です。僕らとしては現代社会の矛盾を描いた作品を作ってほしいと思います。少しでも若高映画部の内容が向上するように研究しています。

音楽部

「へたくそオ、こんなんで舞台に出せんぞ」「また最初から」こう言う指揮者。低いメロディーが流れ始める。次第に音が上がり広がっていく。



「フォルテー」私達はあらん限り声を出す。「フォルテー」

一瞬音が消え、また繰り返し低いメロディーが流れ、音が流れる。指揮者の額は汗がにじみ、みんなの目はキンと見ひらいている。歌は最頂点に達し、指揮棒がピタッと止まる。皆は、ぐったりとなる。

これが合唱部です。この頃の御覧は少々薄いが、今流行のカラヤンばりの指揮者吉永さんは、日々の練習を充実させる為、しいては私達の一つの目標である合唱コンクール優勝を達成させる為、指揮をお願いした先輩です。練習はほぼ毎日、少し厳しいが、いたって笑い声の多い明るいクラブです。

いつでも音楽部に入りたい方、音楽室においで下さい。歓迎いたします。いま音痴（部員数）が足らないのが、最大の悩みです。

新聞部

我々新聞部は現在部員約四〇名一致団結して若高唯一の発行紙である〝礫陵新聞〟を発行している。しかし、ただ発行するだけではない。現在若高における諸問題等を紙面に訴えて、若高生がより学校生活を送るために尽しています。

新聞部の昨年度の成果としては去る三月の西部高校新聞コンクールに応募して〝努力賞〟を受賞したことである。このコンクールには西部各地方から一三〇校が応募し、その中から二五校が選出された。この中に若高の新聞部が選ばれたのは、我々四〇名の部員の根気と努力が実ったものと思われる。しかし残念ながらこの若高の代表とも言うべき新聞が無残にもゴミ箱の中に捨てられているのは悲しい。我々もこれからより良い新聞を発行していくが、諸君達も、すみからすみまでとはいわない、せっかくみんなが努力して書いた新聞を読んでもらいたい。

茶道部

茶道というもの自体が地味なので、クラブとしての存在も他のクラブにくらべて薄いと思います。にも、かかわらず心強いのは、新入部員、特に一年生が例年になく大変多かった事です。しかも、その人達の中には経験者が、数名いました。

茶道部の年間行事を紹介します。

一月　初釜（ただし、この時に三年生のお別れ会を兼ねる）

三月　鶴元見学（これは今年初めて行った。これからは続けていきたいと思っている）

九月　文化祭参加（今年は初めての試みとして「野立て」を計画中です）

十月　炉開き（先生が炭手前をみせて下さることになっている）

これらの行事に参加されたい方は、部員に申し出て下さい。

華道部

華道部は毎年百名を越える部員数である。今年もまた百名近くになった。しかし、今年は昨年度と違って、道具等も揃う予定であるし、かなり充実したものになるはずである。

華道というのは、元来日本独自のものである。外国にある程度の様式や習慣はあっても、それがみがかれまた、とぎすまされて、一つの美を生み出すということはない。日本人はこういう点においては、彼等よりはるかに芸術的才能を持ち合わせているのかも知れない。たとえ野の花でも、それをきれいでないと思う人はいないだろう。人間が自然を賛する事は、最も当然なことである。そしてそれをいかすことも。そうして見ると、華道は人間の心と自然を結びつける一つのかけ橋であるといえる。私達華道部は、それであるからこそいつも練習に励むのである。

放送部

放送部は部員数一一名である。主な活動としては、運動会の時、レコードの準備、テープの用意、体育課の先生から原稿をもらってくる、アナウンス原稿の準備練習などで、前の日は、九時頃までみんなで和気あいあいと、準備をすすめます。

予餞会の時、原稿の作成がすんだ後、効果音の録音、アナウンスの吹込み等をやります。苦心するのは、事実に基いて、原稿を作成しなければならないのと、当時の録音がまったくない事です。

放送室がせまいので、夏はむせかえる程あつくて、冬は震え上る程寒くなります。また、外の音が放送室の中まで入ってくるので、予餞会の録音の時などは、関係のない音がはいって何度も取りなおしになる事があります。

先日は青葉丘高校と交歓会を開き、活動状況の交換を行ないました。青葉の放送室は本校より広いと聞いて部員一同うらやましがる事しきりでした。

私達の希望は広い放送室がほしいという事だけです。

運動部

箏曲部

現在部員は十五名。毎週月曜日の放課後一～二時間を練習に当てているが、水曜と土曜日を除く日も各自練習ができるようになっている。今のところ、まだまだ練習不足でたいした活動をしていないが、もっと充実させていきたいと思っている。練習を通じて、皆と語り合ったりして楽しい雰囲気を作り上げていく事が今後、私達、最大の目標である。

箏曲は、最初基礎をしっかりとやり、それから一曲すつこなしてゆけるよう日頃の練習が第一、箏曲に少しでも興味のある人、一緒にやってみましょう。決してむずかしいものではありません。放課後の一時、琴の音に耳を傾けるのも、又、心が落ち着くものです。

美術部

現在部員数三十五名で、毎日二十五名近くが活動している。

今年は若戸地区高校美術連盟が発足して初めて開かれる予定である。また八月には北九州地区高校美術連盟展、秋には若松区展、福岡県展、その他に多数出品する予定である。それにこの期間、他校との交歓会や、連盟主催のスケッチ大会、合評会、デッサン、デザイン講習会（コンクール）も、開かれる予定で、部員一同おおいに張切っている。

活動内容としては、石膏デッサン、水彩画を主に、油彩画、デザイン、彫刻も行う予定で、基礎づくりに専念している。

またこの他に、体育祭のポスター、大時計の製作、他のクラブのポスター、その他の、仕事等である。

ブラスバンド部

放課後になると皆さんはこんな音を耳にした事があるだろう。勇ましく鳴り響いてくるトランペットやドラムの音、優雅な感じのフルートあるいはクラリネットを。我等は毎日2時間猛練習を積み重ね、ある時は、吹奏楽ならではの行進曲、又ある時は自分達でアレンジした歌謡曲や民謡など、様々な曲を演奏し、なごやかな雰囲気でどんどんレパートリーをふやしている。校内の活動においては、オリエンテーション、文化祭、若戸大会、予餞会などに参加している。その他運動部の応援にも行きもはや若高にはなくてはならない存在となっている。だが今年から新顧問を迎え、色々話し合い、みんなで協力し合って素晴しいバンドにしようと、はりきっている次第だ。今まで部だけが積極的に演奏会をしたことがなかったが今年こそは必ず発表会をして若高ブラスバンドをみんなと親しめるようなクラブとなるように願いたい。

応援団

生徒諸君の期待に答えて我応援団は今年はじめて発足することが出来た。当応援団は各クラブの練習の成果を十分に発揮できるように、生徒全員で応援するための先導者の立場にあります。

この点応援団というのは常に皆の先頭に立ち、又皆はもちろん、この先導者についてゆかねばなりません。と共にスポーツにも大いに興味をもってもらいたいために（このことは是非とも団員一同の望むところであります。）

しかし現在、団員の数はまだ多少不足がちであるということが最大の悩みであります。したがって生徒諸君が多数入団されることを望んでおります。

練習状況については練習時間を短かくして充実したものにさせることをモットーとし、団員一同が一体となって練習に励んでいます

化学部

今年も例年通り多数の部員が集まった。しかし、実際に活動するのが、この半数であるという過去の例は、わが部の一欠点である。

今年の活動目標は全員の参加による部活動と洞海湾水質調査を主体とした無機化学の研究である。尚、化学の基礎知識を身につける為化学講座を開く。化学教室に於て次の予定で行うので、一般生徒の多数参加を希望します。

○五月四日（水）一五時四〇分～
　　ボイル・シャルルの法則
○五月二八日（土）一三時半～
　　分子・原子・分子式
○六月一日（水）一五時四五分～
　　反応式
○六月四日（土）一三時半～
　　溶液・溶解度

人形劇部

卒業生を六名も送り出して、残りの部員わずか三名という危機にみまわれ、オリエンテーションの時は、卒業生までくり出して背水の陣で臨みました。十仏年間、先輩の方々が築き上げて来たこのクラブを、もっともっと盛り上げたいという私達の悲願がかなって本年度は、新入部員十四名という人形劇部始まって以来の大人数が、入部しました。残念ながら、女子勢の優勢というジンクスは、破られませんでしたけど。これだと又、今年も女性軍がノコギリやカナヅチを持ち出して、ゴトゴトやることになりそうです。

現在、新しい部屋が決ってないので、ボイラー室に居そうろうの状態で、練習場所に大変困っておりますが、七月の非常屋公演・夏休みの公演旅行などの行事を、ひかえ部員一同練習に張り切っています。

水泳部

我々水泳部は、文字通り、泳ぐという事が中心である。しかし、ただ泳ぐだけでなく、いろいろな大会に於いてより多くの選手が入賞する様に努めている。

今から水泳シーズンに入るが、私達は、体力づくりに一生懸命だから、少々の疲れが表われるが水泳をする以上は少々がまんをしなければならないと思っている。

野球部

先月行われた春の九州大会北部予選では、一試合目不戦勝、二、三試合目かるく相手校を破ることができた。次の準々決勝で、昨秋甲子園出場をはばまれた小倉商業と対戦した。さすがに部員全員が緊張していたらしく、気合が入っていた。相手投手の調子が悪かったかもしれないが、我校のトップバッターが初回ねばったあげく左中間二塁打を放った。それが相手投手の動揺をよんで五対〇と試合に楽勝した。次の準決勝に九州工業と対戦し、ピッチャー好投にもかかわらず、わずかな差で破れた。

昨秋、新チームを結成して以来二〇勝五敗三分で順調に勝ち進んでいるが、甲子園へ出場するには夏の大会だけである。以前より、より精進して目的を達したい。

庭球部

高級な（？）我が庭球部の概要を述べさせてもらう。

現在、我が部は今までのレギュラーぎりぎりの人数から新入部員を迎えて一変し、四〇数名の大世帯となり活気が溢れている。

練習において、軟式テニスの試合はダブルスで行われるので、前衛と後衛とが信頼し合い、協力しあわねばならない。後衛は前衛に親の仇のようにボールをぶっつけ、吠えながら追っかけまわし、前衛は後衛の尻をたたいて互いに鍛え合い、チームワークを深めてゆく。（女子になるとずっと楽かくなってくる）そしてその間一年生は球拾いと素振りのみ。

さて練習も終り、帰り仕度をしながら雑談に入る。練習の反省等まじえ楽しく語り合う。

こういった中で庭球部ならではの先輩、後輩の関係が生まれ、有意義な何かが身についてくる。

さて、今年の抱負といえば、まず男子は、全国制覇とまではいかないが、団体、個人において全国大会出場である。例年県大会までは出場するのだが……。

レギュラーは小柄ではあるが、可能性は大きい。女子は全日本は無理だが、県大会は出場できる見込み、これには練習を毎日かかさずにすることのみ。

もうすぐ、試合がせまっている目下桜井先生の下で、連日ラケットを振り回わしている。

ラグビー部

若高始って以来の強豪といわれた昨年チームを、そのまま受けついだ我々三年生を主体とする、新チームは、結成以来今日まで二回の大会を迎えました。

九州北部大会・新人戦と七人制がそれである。

七人制は、練習不足の為か、健闘及ばず、準優勝に終った。

これからの目標としては、まず新人戦に優勝し、北九州実力ナンバーワンの肩書きを持って、九州大会に臨みたいと思っています。

練習状況においては、チームワークを必要とするスポーツである為、チームの団結をはかり、連日ボールが見えなくなる迄、練習に励んでいます。

内容は、基本を重んじて走力を増す事に重点をおき、応用練習においては、試合そのままの迫力で行なっています。

練習後の疲労は、相当なものですが、しかしそこには、人生に必要な何かを、見い出せる様な気がします。（〝ラグビーとは、人生の縮図である〟……）

楽しみ、苦しみを備えている、このスポーツ。（ラクビー〔楽苦備〕）

全員が、ファイトと根性を、持って、グランド狭しと走り回っている姿は、我ラグビー部の、誇りです。

籠球部（男）

我々、籠球部は現在部員一九名である。毎日放課後四時から二時間、大庭（武）先生の指導のもとに、ミッチリ教え込まれる。籠球は運動部の中でも疲労度が高いスポーツである。だから練習の後はいく分疲労が残る。しかし、我々は根性と気力でもって、練習に励んでいる。スポーツと勉強とはよく両立しないといわれるが、我々は「成さねば成らぬ何事も……」のように本人次第でスポーツと勉強は両立すると信じている。

昨年度の成績は一〇勝四敗であった。この中でも忘れられないのは新人戦で八幡付属高校に敗れて県大会にゆけなくなったこと、その翌日から朝六時までに登校、ホームルームが始まるベルがなるまでひたすらに、走りまくり、練習に励んだ。今までの雪辱をはたすため、秋季固体を目ざしてみんなが一致団結して練習に励み、良い成果が現われるように頑張っている。

排球部

今まで優勝を目前にし、あと一歩という所で惜しくも敗れ、目的を達成できなかった根本的原因を追求し、この度二年主力メンバーにファイトあふれる新入生を加え総員三十三名、一致団結して毎日汗まみれの猛練習を積み、着々と体力的にも、技術的にも向上し、五月中旬にある試合にそなえております。

尚、バレー部のモットーとしている、精神面、及び基礎体力の充実を計っています。

又、この度、長年バレー部々長として熱心な指導をして下さった添田先生が転任され、一同少し心細いのですが、先生の今迄の苦労に報いるべく、鍛練に鍛練を重ねています。

陸上部

最近はメキメキと実力を上げ、新人戦・記録会など最近の試合で、トラックにフィールドに多く入賞し、総合成績でもかなりのところまで力をつけている。

練習は毎日放課後約二時間、短・中・長距離、投てきに分かれて練習している。部員は新一年生を含めて約二十五名。現在は、五月下旬に行なわれるインターハイ地区予選を目指して、みんな張り切って練習している。今の目標は八月に行なわれるインターハイ全国大会に多く出場することと。地区予選をはじめとしたいろいろな大会での団体総合優勝である。

今後の試合予定

五月二十二、二十三日　インターハイ地区予選・鞘ケ谷
六月十一、十二日　インターハイ県予選・平和台
六月二十五、二十六日　インターハイ北部九州予選・大分
七月二十一、二十二日　県高校選手権地区予選・鞘ケ谷
八月一～四日　インターハイ全国大会・青森

柔道部

我々柔道部員は、今年日本体育大学を卒業して来られた下川先生と共に練習に励んでいます。先生は四段という実力の持ち主で、我々はとうてい足元にも及びませんが、少しでも先生の実力に近づこうと頑張っています。また、先生は、大変お若く、我々に親近感を与え、心配事を何でも話せるような感じがします。先生も「何か心配事があったら俺に言ってこい」といってくれますので、本当に我々の頼りになってくれます。

は又、最大の目標として、七月二十三、二十四日両日に行われる金鵄旗争奪柔道大会があり、全員、大いに頑張っています。この大会は九州、いや日本でも指折りの大会で、昨年我々は三回戦まで出場しましたが、四回戦にシード校である佐賀商業高校に惜しくも破れました。しかし、今年は四回、五回戦と勝ち進む自信を持って、日夜練習に励んでいます。そして、若高の生徒の代表として恥かしくないような試合を行ないたいと思います。

剣道部

現在部員数三十四名で有段者は初段十一名、二段十一名というように層の厚いことを物語っている部員一同、山崎先生の御指導のもとに放課後二時間ミッチリ練習に励んでいる。部員は自分自身を練磨し、よりよい人間になるために練習を続けている。今後、さしあたっての目標は、九州大会、全国大会に出場すること、そして玉竜旗大会での活躍を夢見ている。

行事予定

五月十五日　九州大会地区予選
五月二十九日　九州大会県大会
六月五日　全国大会地区大会予選
六月十九日　全国大会県大会
七月二十四日　九州大会
七月二十六、二十七日　玉竜旗争奪高校剣道大会

体操部

現在新一年生を含めて十五人、林先生の御指導のもとに毎日練習に励んでいます。現在の練習状態は腕力・背筋力・腹筋強化のための陸上トレーニング一時間とプールで百メートルほど走る。

次第に距離をふやし、試合前までには三千メートルまでの予定。

去年の冬季には、曽根先生の御指導のもとに充実した室内トレーニングができたので、今年の大会には大きな期待が持てそうだ。何といっても今年の最大目標は七月の北部大会に優勝すること。

有望な新一年生が入部して、二三年もハッスルしており、「今年こそは」と意気に燃えている。一、二、三年が一体となり、にぎやかで楽しいクラブである。

弓道部

三十人余りの新入部員を迎え、毎日遅くまで練習に励んでいる。

現在、新入部員に、二、三年の部員が付きっきりで指導し、春の高校体育連盟の団体戦北部予選にそなえている。去年は、県大会に全体、個人とも出場したが、入賞できなかったので、今年は毎月、校内射会、区内大会参加を計画し試合度胸をつけ、是非入賞しようと張り切っている。

又、充実した練習をするため、学校の協力を得て、道場の整備、管理をしたい。四月二十四日に行なわれた区内春期大会では、段外の部で、上位を独占し、大いに気をはいた。

ハンドボール部

我がハンドボール部は現在部員数十九名で創立一年にして県大会で優勝を飾り、その後も順調な足跡を見せている。今ではほとんどどこでも勝てる自信がある。放課後直ちに練習にとりかかり約三時間練習に励んでいる。もう基礎練習もすみ、チームプレーを主とした段階で、目下、最大の目標は、全国大会出場、そう！出場。勝つよりも参加することだし我がクラブは、雨降る今日も練習に力をいれている。

龍そば
本店　本町五丁目　TEL㊼4320
支店　渡場前　㊼4047

〝メガネの専門店〟
アイチ眼鏡店
若松区本町七丁目　TEL㊻3312

毛糸・毛糸編機・手芸用品
ツツミ毛糸店
若松区本町六丁目　TEL㊻3896 2965